クロスホテル京都流 お寺・神社の楽しみ方

木々が艶やかに色づくこの季節は、やっぱり神社やお寺で心を洗いたくなるもの。
でもせっかくなら、ちょっと変わった視点で見てみると意外な発見があるかもしれません。
今回は「御朱印」「雲龍図」「フリーマーケット」をキーワードに珍しい体験ができる寺社をご紹介いたします。
道中で寄り道をしてみるのも一興。京都の魅力を見つけに、さあ出発！

御朱印のはじまりは納経受取の書付

神社やお寺でいただける「御朱印」は、現在では神仏とご縁があったことを記す参拝証明とされています。その起源は諸説ありますが、一説には、書写した経典を奉納した際に「納経受取の書付」をいただいていたものが、参拝した場合にも証明をいただく形に変じていったのではないかと言われています。
変わった意匠の御朱印からその寺社の意外な縁起を学ぶこともあり、それもまた楽しいものです。

雲龍図にはどんな意味があるの!?

禅宗のお寺でよく見かける「雲龍図」。
法堂（はっとう；大衆に法を説く場所）の天井に描かれた龍のお姿に圧倒された経験を持つ方もいるでしょう。
仏教では、龍は八部衆（仏の教えを助ける神さま）の一神とされており、雲龍図には大切な建物や人々を見守っていただきたいという願いが込められていると言われています。
そう思うと、いかめしいお顔もどこか優し気に見えてきませんか？

京都でのフリーマーケットは「ご縁を結ぶ日」!?

「フリー（flea；蚤）マーケット（market；市場）」は、
パリで行われる蚤の市（marché aux puces）が語源だと言われています。
京都でも頻繁に見かけることができますが、
実はその多くは実施する寺社の「縁日」だとご存じですか？
「縁日」の本来の意味は「お祀りする神仏に縁のある日」を指す言葉で、
その日に供養やお祭りを行っていたところ、お参りする人が多いので
屋台を出すようになったと言われています。
もし寺社のフリーマーケットに立ち寄ったら、合わせて参拝してみては？

2022 CROSS HOTEL KYOTO